

北京研修レポート

1年 組 番

【ホストファミリーとの休日】

12月22日と23日はホストファミリーと過ごす日でいろいろなところに連れて行ってもらいました。

22日は北海公園に連れて行ってもらいました。途中でなぜかいきなり君のところと合流することになりその日は私たちと君たちと、君のバディの彼女と行動を共にしました。最初は繁華街に行き友達や家族へのお土産を買うためにお店を回りました。私が興味を示したものにすぐに説明をしてくれたりお店に連れて行ってくれたりと優しかったです。それにお茶の店で、2種類のお茶をそれぞれ50g頼んだにもかかわらず、両方とも100g近く自然に盛られてしまっあつけにとられていた時にバディが「頼んだのは50gずつですよ」とすぐに言ってくれてぼったくられずに済むことができました。ちょこちょこ日本の店があったのですが聞いたこともない店ばかりで、中国と日本ではうける店が違うのだなと面白かったです。中には日本でもおなじみの叫ぶチキンがあり見つけたときは少しうれしかったです。

その後君達と合流し公園内を散策しました。そこで凍った池を初めて見てとても感動しました。しかしある池は凍っておらず、ボートが一行に並べてあったのですがスワンボートならぬひよこボートが整然と遠くのほうまで並んでいる光景はホラーでした。北海公園の目玉らしい九龍の壁画は、中国三大九龍壁の中で最も大きくきれいだそうなのですが他を見たことがないので比較できませんが、思った以上に大きく色が鮮やかで、しかも両面に九龍が描かれており立派でした。そして五龍亭にも行ったのですが、五つの小さな休憩所のようなところで真ん中を中心として形やデザインがシンメトリーになっていてきれいでした。途中、馬と小鳥がくっついた飴細工を作ってもらったのですが、午後に溶けたり落としてしまったりしたため当日中に消えてしまい悲しかったです。それからが大変で北海公園を出てバスを待っていたのですが、人が多すぎてとても全員乗れるような状態ではなく何本か見送ったのですが、結局はほとんど同じような状態のバスに乗りました。飴細工を守るのに必死だったうえに、ドアが容赦なく閉まるので腕がぶつかって痛かったり体力を激しく消耗しました。ついた後はショッピングモールのようなところでゲームセンターに行き遊んだり本を買ったりしました。君たちと別れた後はホストファミリーと水餃子を食べに行きました。豚肉白菜とニラ玉の二種類を頼んだのですがどちらもおいしかったです。北京限定のドリンクも飲んだのですが、オレンジ炭酸みたいでした。

23日は動物園と天文館に行きました。園内は驚くほど寒くカイロをしなかったことを後悔しました。もちろんパンダを見たのですが高い確率で寝ているか中の木やらなんやら

で顔をあまり見ることができませんでしたが、可愛かったです。その後パンダグッズを買うためショップに行きました。ぬいぐるみが多くせっかく来たので、そこで出会った優しい外国人の方に写真を撮ってもらいました。その人はフレンドリーな方で一緒に写真も撮りました。店ではパンダ石鹸と文房具を買い石鹸の一つはバディにプレゼントしました。途中小腹がすいてフライドポテトのチョコソース掛けを食べたのですが普通においしかったです。ベンチに座って食べながら学校のことや自分が疑問に思っていたことを聞いたりしました。そしてパンダ以外の動物を見てまわり移動中には、娘さんが日本の大学に行ったという夫婦とお話もしました。優しい方で娘さんのことについていろいろ話ってくれました。お昼はコンビニみたいなところで興味本位でハンバーガーをかったのですが、パンの部分は何とも言えない味でちょっと後悔しました。しかし帰り道に食べた肉まんはとてもおいしくて、こういうものを買ったほうが良いなと思いました。

その後は天文館に行きました。入口ところがくぼんでいるようなデザインで面白かったです。中にはプラネタリウムの劇場や宇宙について学べる模型やゲームがありました。ゲームを何個かやってみたのですが、意味があまりわからないものもありバディとお互い首をかしげながらやりました。クイズにも挑戦したのですが割と勘で答えたにもかかわらず正解していて二人で面白がってました。夜は火鍋を食べました。初めての鍋のタイプで、構造や仕組みが興味深かったです。結構肉の量が多かったのですが、最後は二人で完食することができました。味はもちろんおいしかったですし食べ終わった後には体もぼかぼかでした。

【日本と中国の家や習慣の違い】

最初にバディの家に行って思ったことは、「暖かい」でした。てっきりもっと寒いものだと思って覚悟していたのですが、杞憂に終わりました。暖かい理由は北京特有の暖房器具みたいで、見た目は白い板で中にお湯が流れているパイプがありそれで部屋を暖めているそうです。私のホストファミリーは一日中それをつけっぱなしにしているようで、おかげで布団から出た後も外から帰ってきた後も寒さを感じることはなくむしろお風呂上りには窓を開けるほどでした。

私のところだけかもしれませんが、夕食後にはホストファザーが果物を大皿二皿分も切ってくださいることもありました。中国では果物を食べる習慣があるみたいで、月壇中学での昼食でも毎回りんごや梨が出ました。しかも丸々一個ですごいワイルドに感じました。そのあとは、ホストファザーが果物いる？と聞いてきたときは毎回丁重に断らせていただきました。他にも、お風呂はシャワーだけだったり、朝食は基本的に家で食べるなど日本との習慣の違いが多くありました。シャワーは水が出る部分を動かすことができずびっくりしました。

【発展するインターネットと現金の不使用化】

テレビである程度知識はあったのですが、やはり驚いたのが中国では携帯さえあればほ

とんど何でもできるということです。もちろん店で物を買う時もそうですし、食事のお会計時、さらには普通の屋台みたいなところでも使えました。QRコードを読み取ればすぐに支払うことができ、レンタル自転車も携帯で支払うことができます。もちろん現金もある程度は使えるのですが、ある店では現金がなくてお釣りができないという理由で現金での支払いを断られたことがありました。

私たちは企業訪問でIT企業に行ったのですが、そこはオンライン教育のサービスの提供を主としており、現在ネットでの教育サービスが進んでいます。都市部と地方との教育格差を減らそうと努力しているそうです。しかし地方ではそれらを見るための機器がないのではと疑問に思いましたが、今地方の学校では機器の導入が進んでおり、ますますオンライン教育が広まっているそうです。中国のインターネット化や技術は日本より断然優れているなと感じました。中国への認識が改まりました。

【長城や天安門にいった感想】

私たちは27日に万里の長城に行きました。車で行ったのですが途中から寒くなり、私たち長城に行って大丈夫なのかと不安でいっぱいでした。登る前にトイレに行ったのですが、ここでカイロを貼ったり、ズボン下を履いたり各々装備を整え入口へと進みました。急な男坂と比較的緩やかな女坂があり、私たちは女坂を登りました。登ってすぐに想像以上の寒さと坂の急さに心の中は阿鼻叫喚状態でした。休憩所までの道のりが険しく、一合目につくまでで結構たくたになりました。川又先生と案内の人は、やはり経験の差からなのか軽快に登っていき、少し上で私たちを待ち、そしてまた進むの繰り返しでした。休憩所でしたが、もちろん周りを壁で囲まれているわけではないので、容赦なく風が吹きつけてきて体感温度がさらに下がり、ただ足を休める時間でした。途中からは階段ではなく坂となり、四合目の手前でギブアップしたのですが、そこからの景観は本当に素晴らしく、これを作ったのが今よりもずっと昔の、ひいては人間だと信じられなかったです。360度見渡しても木々で、終わりの見えないずっとずっと遠くまで続いている光景は言葉では表せないくらい感動しました。人生で一度は行くべき場所だと思います。

一通り休憩し景観を楽しんだ後、そのまま来た道に戻ったのですが帰りも厳しい道でした。やはりあの高さなので風が結構強く、さらに段差が大きいのと坂が急なのとで一瞬階段があるのかわからなかったです。一段一段恐る恐る進み、後半は太ももが一段一段降りるたびに震えてました。それと特に驚いたのが、帰りの中盤くらいで目が痛いなんて思ってこすってみるとまつげが凍っていたことです。それが瞬きするたびに落ちて目元にあたっていました。あの時はわが目を疑いました。ついでに前髪も凍りおでこが痛かったです。大変でしたが初めての体験を多くすることができて良かったです。

天安門は、中華人民共和国を作った毛沢東主席の写真が真ん中にでかかど飾られておりテレビで見た光景そのままでした。兵士さんのような方も多くいて、日本との治安の違いを改めて感じました。天安門広場はそれはそれは広くて軍隊のパレードもここでなら余裕だ

なあと、規模の大きさに感嘆しました。天安門をくぐるとまた広いスペースがあり、大和門がありました。そこをまたくぐると中国最大の木造建築である大和殿が荘厳な雰囲気で行んでいました。まるで映画から飛び出してきたかのような光景で、時間が止まった感じがしました。青や赤・金色を特徴とした色彩で細かいところまで塗られていました。その美しさと偉大さには歴代皇帝の大きな権力を感じました。

他にも北京大学や清華大学といった中国を代表する大学にも行きました。ここは公園かと思うほど敷地が広く、中では車や自転車が多く通っていました。一つ一つの建物の大きさが規格外でさすがにお金あるなと感じました。